



雑感

長野県信濃川水系の河川敷でカワラバッタを観察

Eusphingonotus japonicus (Saussure, 1888) observed on the bank of the Shinano River system in
Nagano Prefecture, Japan

山川宇宙^{1*}・鎗田めぐ²

Uchu Yamakawa^{1*} & Meg Yarita²

キーワード：バッタ科，河原，絶滅危惧種，神奈川県，復元

Keywords: Acrididae, dry riverbed, endangered species, Kanagawa Prefecture, restoration

カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus* (Saussure, 1888)は北海道から九州にかけて分布し、主に砂地で石が点在する河原に生息する(槐, 2013)。このような環境は河川改修などの影響により減少しており、本種は多くの都府県のレッドリストで絶滅危惧種に選定されている(浜口, 2006; 藤井, 2015; 伊藤, 2023)。

第1著者は神奈川県で生まれ育ったが、同県にお

いても本種は絶滅危惧I類に選定されている(浜口, 2006)。幼少期に昆虫図鑑で本種の写真を見て憧れていたが、県内ではついぞ観察することは叶わなかった。

一方、長野県ではまだ多く見られると聞いたため、著者ら2名で2024年6月に信濃川水系の河川敷を訪れた。河川敷に降り立った瞬間、足元を跳ねる灰色のバッタ(図1)が目に入る。その体色を見て、カワラバッタの幼虫であると確信した。周りの石と見分けがつかないほど、背景に溶け込んでいる。よく目を凝らしてみると、他にも多くの本種幼虫がそこかしこにいた。素晴らしい、その一言に尽きる。時期が早いいためか、成虫を観察することはできなかったが、憧れのバッタに囲まれて感動を味わうことができた。

カワラバッタが普通に生息する光景をいずれ神奈川県でも見ることができるのだろうか。雛倉・伊藤(2010)によれば、長らく記録の途絶えていた同県川崎市の多摩川において、2008–2009年に本種が記録され、この要因の1つとして、上流に位置する東京都の生息地から分布拡大してきた可能性が挙げられている。この事例を見る限り、本種の生息地が流

¹ 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻
〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

Biological Sciences, Graduate School of Life and
Environmental Sciences, University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8572 Japan

² 筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群
〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

Degree Programs in Life and Earth Sciences,
Graduate School of Science and Technology
Doctoral Program in Agricultural Sciences,
University of Tsukuba

1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8572 Japan

*Email: uchukawaanago@gmail.com

(2024年6月30日受付, 2024年7月3日受理)

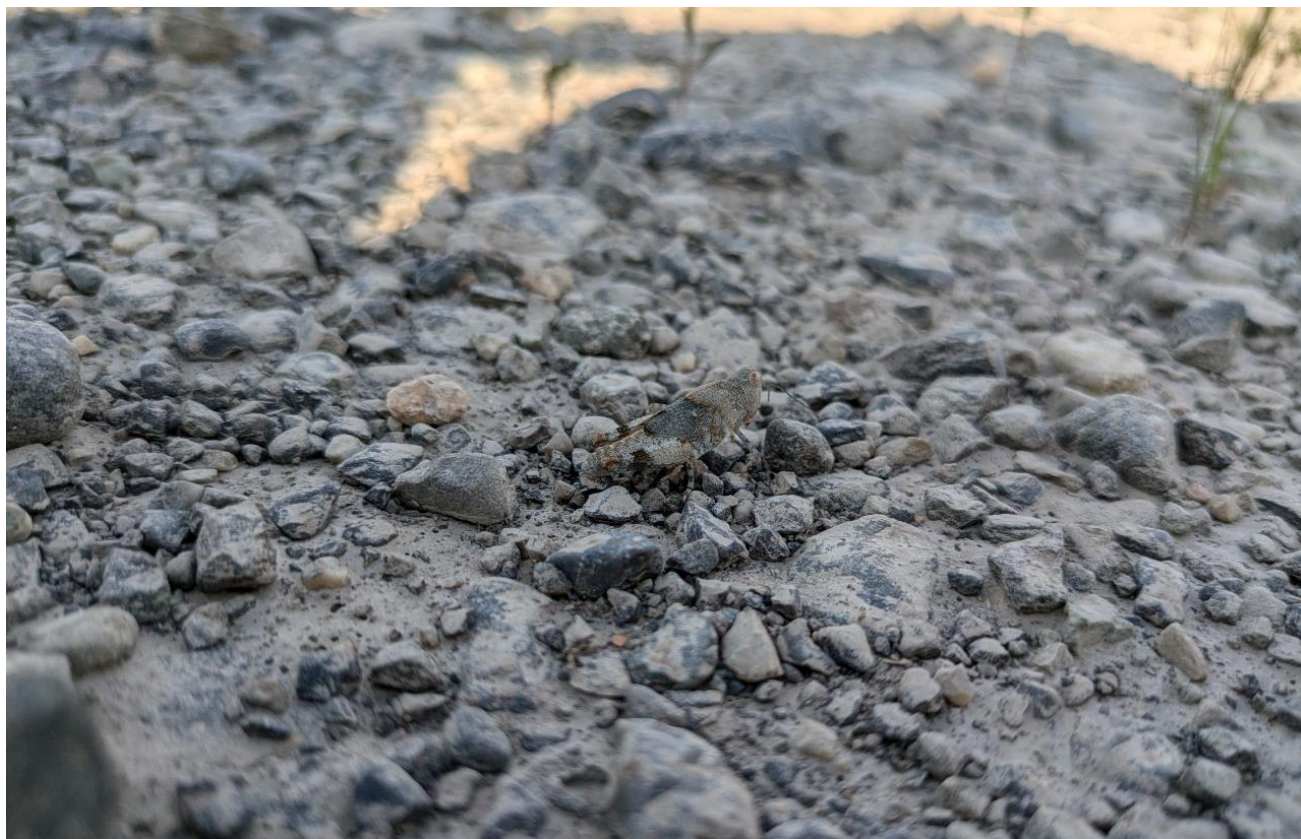


図 1. カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus* の幼虫 (写真中央), 信濃川水系の河川敷 (長野県), 2024 年 6 月 16 日, 鎗田めぐ撮影.

域にまだ残っており, かつ生息に適した環境が流域内の別の場所に復元されれば, 本種が自力でやってきてくれるかもしれない. 神奈川県では自然状態の河原はほとんど失われてしまっているが, これ以上破壊されず, 少しでも復元されて, 多くのカワラバッタが生息できるようになることを願いたい.

謝辞

文献収集に快くご協力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏博士に厚く御礼申し上げます.

引用文献

槐 真史 (2013): ポケット図鑑日本の昆虫 1400 ①チヨウ・バッタ・セミ. 文一総合出版, 東京.

藤井 伸二 (2015): カワラバッタ. <https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0029.html> (参照 30 June 2024).

浜口哲一 (2006): バッタ類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編)「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. pp. 325-330.

雛倉正人・伊藤 元 (2010): 多摩川下流域で確認されたカワラバッタ. 神奈川虫報, 169: 27-30.

伊藤 元 (2023): カワラバッタ. 東京都環境局自然保護部 (編)「東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版—」. 東京都環境局自然保護部, 東京. p. 585.